美術科教育学会通信 No.65　2007.6.24.発行

通信事務
〒448-8542　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１
愛知教育大学 創造科学系 美術教育講座内 美術科教育学会本部事務局

事務局 E-mail／bikiga@m.auecc.aichi-edu.ac.jp
藤江充(学会代表理事) ー研究室 TEL0566-26-2444
礒部洋司(事務局長)　ー研究室 TEL0566-26-2447
樋口一成(広報担当)　ー研究室 TEL0566-26-2449
〈三重大学〉上山浩（Web 担当）E-mail／ueyama@edu.mie-u.ac.jp

学会代表理事就任にあたって

学会代表理事 ふじえみつる(愛知教育大学)

美術科教育学会の全国大会も今年の群馬大会でちょうど 30 回目になります。30 年前に，奈良教育大学で始まったこの学会も 30 歳になり，働きざかりの時代をむかえました。私も，第１回から参加させていただきました。また，1990 年に愛知教育大学で本部事務局をお受けしてから 17 年が経ちました。

美術教育をめぐる状況は，必ずしも楽観できるものではありませんが，この学会の重要性は増すことはあっても減じることはありません。本学会も深く関わる国際美術教育会議(InSEA)も 2008 年に大阪で開催予定です。これを機会に，国内外の造形美術教育関連の学会や研究会が連携協力して，社会に訴える大きな力となることと期待しています。

今後の学会の運営に関しては，理事・監事等の皆様と相談しながら方針を出したいと思いますが，理事選挙のあり方や研究部会のあり方の検討，学会誌の国際化など課題は多々あります。愛知教育大学も法人化以後，学会事務に迅速に対応するのには困難な状況にありますが，礒部洋司事務局長，樋口一成広報担当等で協力しながら精一杯に役目を果たしていくつもりです。

この『学会通信』は 17 年前に愛知教育大学が事務局の時から発行されています。その第１号には，当時の代表理事である鈴木寛男先生の巻頭言があります。その見出しは「会員の善意の結集によって」となっています。今でも，「会員の善意の結集」によってこそ会が成り立っているという事実は変わりません。

今後とも会員の皆様方のご協力とご支援をいただくようお願いをしまして，ご挨拶といたします。

※橋本泰幸先生(前代表理事)の退任のご挨拶は、前回の美術科教育学会通信に掲載させていただきました。

「美術科教育学会」H19 年度役員名簿

（H19.6.現在）

■理事（50音順）

新井　哲夫（群馬大学・教授）
礒部　洋司（愛知教育大学・教授）
板良敷　敏（大阪国際大学・教授）
○岩崎由紀夫（大阪教育大学・教授）
上山　浩　（三重大学・教授）
岡崎　昭夫（筑波大学・教授）
○金子　一夫（茨城大学・教授）
花篤　實　（大阪芸術大学・客員教授）
柴田　和豊（東京学芸大学・教授）
直江　俊雄（筑波大学・准教授）
仲瀬　律久（聖徳大学・教授）
長田　謙一（首都大学東京・教授）
永守　基樹（和歌山大学・教授）
橋本　泰幸（鳴門教育大学・教授）
福本　謹一（兵庫教育大学・教授）
◎藤江　充　（愛知教育大学・教授）
○増田　金吾（東京学芸大学・教授）
宮脇　理　（元・筑波大学教授）
山木　朝彦（鳴門教育大学・教授）
山田　一美（東京学芸大学・教授）

※◎は代表理事
　○は副代表理事

■監事

東山　明　（甲南女子大学教授）
宮坂　元裕（帝京平成大学教授）

総務部副代表理事に再任されて

美術科教育学会副代表理事　増田金吾(東京学芸大学)

藤江代表理事から副代表理事をするように依頼されました。今期は別の方へとお願い申し上げたのですが，どうしてもということなので，もう一期やらせて頂きます。担当は総務ということで，日本学術会議（教育学担当）への対応も行います。

総務部は代表理事の下，会計や会員名簿管理等，学会の最も基本的な部分を担当しています。学会事務センター破綻後，橋本前代表理事を中心に鳴門教育大学前学会事務局が会計等基幹部分を立て直してくれました。今期総務部はその後を受け，軌道に乗った会計や会員名簿の管理を維持，発展させて行かねばなりません。愛知教育大学学会事務局がその活動の中心となります。一方，学術会議の組織改革後，開催が遅れていた「教育学関連学会連絡協議会」は本年７月に行われる予定です。それに関しては後日報告をさせて頂きます。微力ではありますが，力を尽くしていきたいと思いますので会員諸氏のご協力をよろしくお願い申し上げます。

事業部担当にあたって

事業部担当副代表理事　岩崎由紀夫(大阪教育大学)

事業部の総括担当をさせていただくことになりました。どうぞ会員の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

さて、事業部担当の活動内容は大きく二つあります。一つは、東西の地区研究会（以下、地区会）の継続的な開催です。今期も東地区会は宮脇理理事、西地区会は花篤実理事が総括担当されることになります。前期同様年３－４回のペースでそれぞれの地区会が開催される予定です。学会大会同様会員の発表の場として活用していただければ幸いです。詳細は学会通信等で案内させていただきます。会員確保や会の拡大に努めるため、進んでご参加ください。

今一つは、今期に開催される InSEA（国際美術教育学会）世界大会 in 大阪への共催です。２００８年８月５－９日に大阪国際交流センターでの開催を財政面や研究面などいろいろな側面から支援していくことになります。前執行部申請の困難と思われた国際学会開催を含めた研究成果の発表にかかわる科研費が採択されるという朗報も舞い込み、意気込んでいるところです。国内外に日本の美術教育を発信し、グローバルな視点から意義あるパワフルな大会になるよう積極的に協力していきたいものです。微力ですが、全うできますようご支援、ご尽力をお願い申し上げます。

〈InSEA(国際美術教育学会)世界大会 in 大阪のパンフより〉

学会誌編集委員長のあいさつ

学会誌編集委員長　金子一夫(茨城大学)

今年度４月から学会誌編集委員長となりました。よろしくお願いします。学会誌は永守基樹前委員長によって様式及び編集方式が大改革され、第 27 号から面目を一新しました。今年度末発行予定の第 29 号もそれを引き継いで作業をするつもりでいます。ただ、投稿要領を若干改訂させていただきました。詳しくは会報所載の投稿要領で確認下さい。

学会は学術的研究を推進する組織であり、学会誌の編集発行はその中核にあたるものです。美術科教育学会誌発行は既に 28 回を数えました。最初期から見れば、学会誌の内容水準はかなりの向上を遂げたと言ってよいと思います。しかし、様々な課題の解決にお互いに努力しなければ、向上どころか水準維持すら困難になってしまうでしょう。例えば、美術教育に関する学術論文とは何かについて議論し共通理解を形成する必要があると思いますし、プロジェクトで検討されてきた実践研究論文のあるべき姿についても、さらに方向を明らかにできればよいと思います。この努力の積み重ねによって学術的研究の在り方が明確になり、現実の美術教育への寄与も明確になっていくと確信しています。

美術科教育学会誌『美術教育学』第２９号投稿要領
―投稿希望者は投稿予告連絡をお願いします―

2007 年 6 月 1 日　学会誌編集委員長　金 子一 夫

１　『美術教育学』第 28 号論文投稿について

美術科教育学会誌『美術教育学』第 29 号（2008 年 3 月刊行予定）への論文投稿を呼びかけます。

本学会は、会員からの本学会誌への論文投稿を常時受け付けています。投稿論文は未発表論文に限られます。ただ、大会や地区会等での口頭発表や論文は既発表とはみなしませんので、投稿可能です。投稿論文の掲載可否は、編集委員会が委嘱した査読委員による査読と、その結果を受けた編集委員会の議を経た上で決定されます。

第 29 号掲載希望の論文投稿の締め切りは、2007(平成 19)年 8 月 28 日火曜日（必着）とします。ただし特別の事情のある方には、「特別猶予期間」を設けます。投稿者には、査読をはじめ所定の手続きを経た掲載可否判断の結果を９月下旬頃までにお伝えします。条件付掲載可とされた論文も含め、10 月下旬頃（改めて正規期日を該当者にお伝えします）までに「入稿要領」（該当者に別途送付）に従ってデータを整えて、掲載論文を入稿して下さい。8 月 28 日締め切りの投稿に際しまして、御送付いただく内容を下に案内いたします。第 28 号巻末所収「編集・査読規定」とあわせ御理解の上、どうぞ学会員の皆様、ふるって御投稿下さい。

なお、諸連絡を迅速にするために、投稿希望者には以下の要領に従い E-Mail での投稿予告をお願いします。

■投稿予告メイル（メイルを使わない場合は FAX ）を７月末日までにお送りください。

メイル標題「学会誌 29 号投稿希望／氏名」、本文に「氏名・所属・論文仮題・予定頁数（規定頁数はタイトル頁を含み 12 頁）・連絡先電話・Fax・E-Mail アドレス」を記入し、茨城大学金子研究室　kaneko@mx.ibaraki.ac.jp Fax の場合は 029-228-8329 へ送信下さい。Fax 宛先は大学の事務部総務係ですので、最初に金子一夫宛と明記して下さい。御不明の点はお問い合わせください。

◎本予告を掲載の条件とはいたしません。

■論文投稿時提出物一覧

（大きな不備がある場合は再提出や不受理の扱いとする／提出物は原則として返却しません）

○ 査読用原稿（原則として返却しません）

① プリントアウト原稿〈複写可〉４部

原稿は必ずパソコン又はワープロで作成してください。原稿は本文と「表題」「図版」「表」等がレイアウト済みになっていることが望ましい（図表コピーを文字原稿へ貼込むのも可）。裏面の**『投稿原稿作成要領』**に拠って原稿を作成してください。分量はタイトル頁を含み、レイアウト済み、原則 12 頁以内。この規定頁数以上で掲載可となった場合は、頁数に応じて追加投稿料が必要です。査読用原稿では英文表題・英文要約は不要ですが、英文表題部分のスペース（行数）を空けてレイアウトしてください。査読等を経た後の掲載用正式入稿の際には、プリントアウトだけでなくデジタルデータも提出していただきます。

② 図・表コピー　４部

査読用原稿は本文原稿とともにレイアウト済みの状態で提出することが望ましい。プリントアウトされた原稿のなかに図・表も収めて下さい。やむを得ない場合、図・表をレイアウトせずにコピー等での提出も可。この場合、紙焼き写真・図版などを、必要に応じてトリミングを明示し、レイアウトされた原稿での位置を頁番号や記号で明確に指示してください。

なお、掲載用の正式入稿は鮮明な印刷にするため、図・表原稿またはそのデータを個々独立させて提出していただく予定です。

図版などの著作権については印刷だけではなく Web 上での公開を含めた形での確認をお願いします。

○ **論文査読結果報告送付用封筒　　１枚**

（A4 版用〔角形２号〕、郵便切手 240 円貼付済み、宛名に投稿者の住所氏名等記入済みのもの）

○ **論文査読用郵送費**　　郵便切手で　240 円×4 枚　　計 960 円分

○ **論文受領確認はがき　１枚**　５０円官製はがき（宛名に投稿者の住所氏名等記入済みのもの）

○ **緊急連絡先のメモ（A4 縦版１枚に横書き）**

①氏名／②電話番号（自宅・職場の別明記）／③Fax 番号／④E-Mail アドレス／⑤携帯電話番号等

■締め切り　　2007 年 8 月 28 日（火）郵便必着

■特別猶予期間　　2007 年 9 月 12 日（火）郵便必着

やむを得ぬ事情で締切日までに原稿を提出が無理な場合、必ず投稿する旨と投稿予定論文の和文レジュメ(200 字程度)を 8 月 28 日までに郵送必着でお送りください。その場合に限り、9 月 12 日(火)(必着)まで特別猶予期間を設けます。上記２者の締切期限は公正を期すために厳守します。

■送付先　〒310-8521 茨城県水戸市文京 2-1-1 金子一夫気付　美術科教育学会誌編集委員会 宛

■送付方法　受領期日に関するトラブルを避けるために、書留郵便か宅配便でお送り下さい。

■投稿料　査読後掲載が決定された場合、所定の投稿料を納めていただきます。別途案内申し上げますが、規定頁数(タイトル頁を含む 12 頁)で、24,000 円の予定です。規定頁数を超えた場合は追加料金が必要です。

■照会先　学会誌編集委員長　金子一夫

住所 311-0115 茨城県水戸市文京 2-1-1 茨城大学教育学部

金子研究室 E-Mail：kaneko@mx.ibaraki.ac.jp

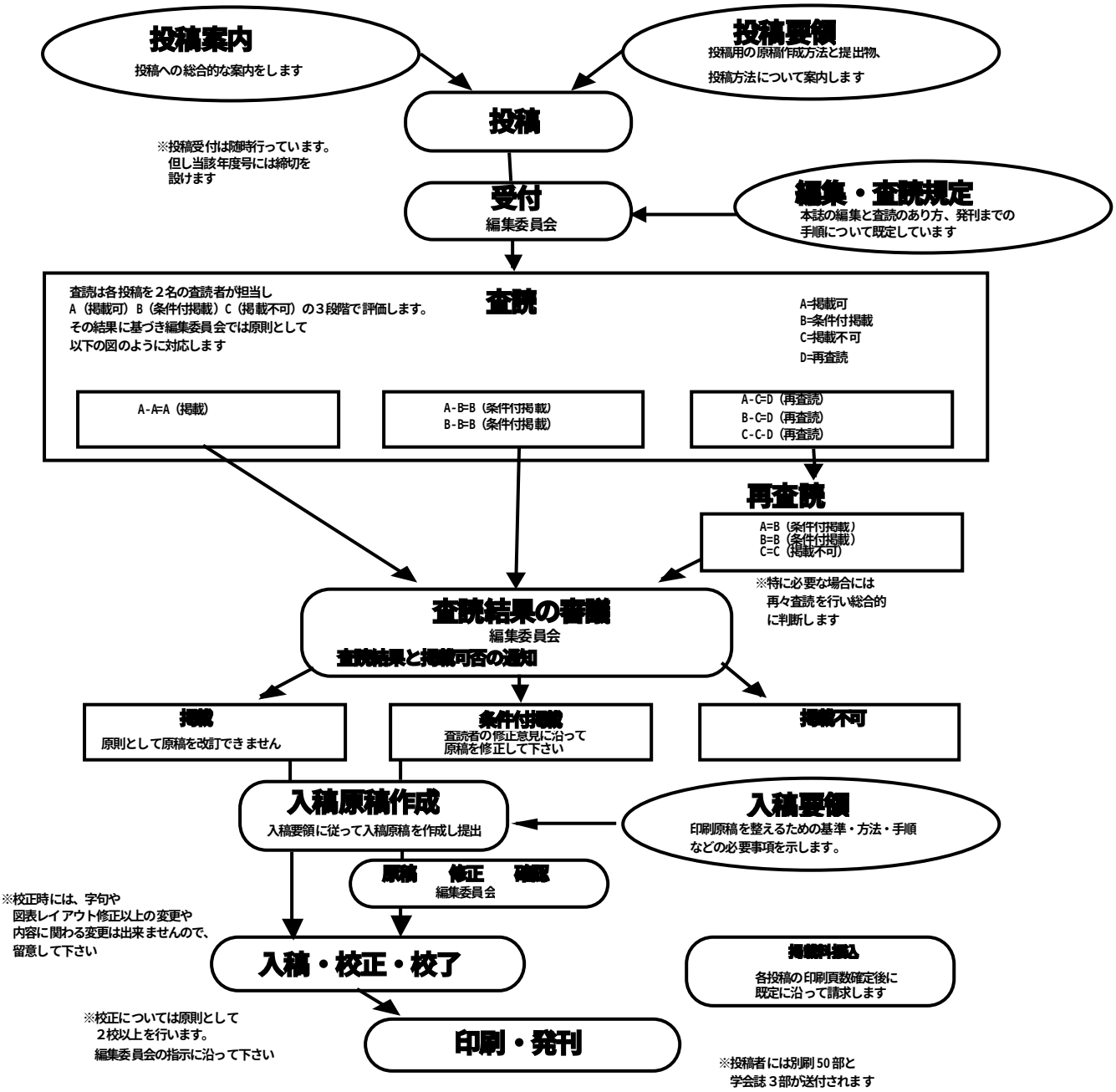
２『美術教育学』賞・同奨励賞について

2003 年度より、美術科教育学会員による、美術教育学研究の発展に貢献が期待され、今後の可能性に満ちた優れた研究成果に対して『美術教育学』賞及び同・奨励賞を授与しています。清新な研究を称揚し本学会誌の質向上を図るとともに、斯学全体の発展に資することを目的としています。掲載論文は本賞の対象となることを御了承ください。賞の詳細は学会ＨＰにて「『美術科教育学』賞規定」を御参照ください。

３ 学会誌掲載論文レビューについて

学会誌『美術教育学』第 29 号でも学会誌掲載論文を対象としたレビューを掲載する予定です。その趣旨については第 24 号の「批評と討論−<美術教育学>の理論と実践−レビュー論文掲載について」(長田謙一・当時編集委員長)を御参照ください。

美術科教育学会誌『美術教育学』投稿から発刊まで



美術科教育学会誌 29 号／投稿原稿作成要領

この「投稿原稿作成要領」は「投稿要領」の続きです。

投稿に際しての提出物や留意点については，「第 29 号投稿要領」をご確認下さい。

[美術科教育学会・学会誌編集委員会]

第 26 号より学会誌の形式に沿ったレイアウト（表題・本文・図表・註）済みの原稿を投稿時に提出して頂くことになりました。これは査読・編集・校正の正確と迅速，印刷経費軽減に大きな効果がありますので，以下の要領に沿った投稿原稿作成をお願いします。

レイアウト・書式は本学会 HP のトップページから書式見本をダウンロードして御利用下さい。（書式自体は第 27 号と変えない予定ですので，HP で投稿要領が未だ第 29 号用に更新されていなくても書式の頁は利用できます。）

美術科教育学会公式ＨＰ　http://wwwsoc.nii.ac.jp/aae/Home.html　からダウンロード可能なデータは以下の通りです。

(1) 組版見本（冒頭タイトル頁） (2) 同左（本文頁） (3)同左（註頁）(4) 組版グリッド付き見本（含タイトル頁） (5)同左（本文頁） (6)同左（註頁）(7) MS-Word 用フォーマット

投稿原稿は厳密に印刷製版時の書式である必要はありません（印刷製版時のデータは投稿原稿作成時の参考のために示しています）。投稿原稿は段組・１行字数・行数が正確であり，図と表のレイアウトが（本文と対応して）適切にできていること，投稿者ご自身と編集委員会が総頁数を正確に把握であることが基本です。さらに査読者が気持ちよく精読できるような配慮をお願い出来れば幸いです。

(1) 構成について

【判面】

・印刷製版は B5 判です。ただし、全て原稿は査読者・編集者の指示等が記入しやすくするため，A4 判紙へレイアウトして下さい。

・製本印刷は B5 判紙面（182mm× 257mm）に対し，判面は天：16mm，地：23mm，左右：20mm+14mm（ノド+小口）の余白を取ったかたちとなります。

・本文（タイトルと註を除く）は，２段組，１段 20 字×40 行の横書きとします。

・図表も上記の判面内に収まるよう，段組の横幅を基準にレイアウトしてください。そのレイアウトで実際の印刷サイズがどうなるかは、前号の印刷頁を参考に確認して下さい。

【タイトル・氏名】

・冒頭に判面横幅の１段組を 14 行分挿入します。

・表題，副題，欧文題，氏名，欧文氏名を記します。副題はかならずしも必要としません。表題，副題，欧文題，氏名，欧文氏名ともすべて左寄せしてください。

・和文氏名のアタマ（左）に「*」（アスタリスク）を付し，著者複数の場合，第二著者には「**」，第三著者には「***」を同様に付して下さい。これは概要の下に記される「著者データ」と対応します。著者複数の場合の表記については組版見本を参照して下さい。

・これらのスペースとして 14 行を使用し，本文は 15 行目からとなります。

【概要・著者データ】

・冒頭頁左段には「概要」（和文の論文要旨）が掲載されます。「概要」の文字数は二百字～三百字程度とし，入稿時に提出する英文概要と対訳関係になっている必要はありません。（概要は印刷仕上がりでは 9.21 ポイント(13Q)です）

・「概要」は「何をどのような方法で明らかにしたのかという方法と結論」を中心に論旨を簡潔にまとめるものです。序論，前書き，心構えのような内容を述べるものではありませんのでご注意下さい。

・冒頭頁左段さの最下部の数行に「著者データ」が掲載されます。「著者データ」の内容は「和文氏名・欧文氏名・所属・欧文所属・連絡先」です。所属は原則として大学名＋学部等名としますが，著者の判断により表記方法は変更可能です。また連絡先は原則として電子メイルアドレスとしますが，これも著者の判断で別の連絡先（例えば電話番号や住所）でも可能ですし，連絡先を記さないことも可能です。

例（著者２名の場合）

*江尾海太／日本芸術大学造形学部

EO,Kaita ／Nihon University of Arts, Faculty of Art and Design

E-Mail：Kaita@ccc.nu-art.ac.jp

**三田寛二／世田谷大学教育学部

MITA,Kanji／Setagaya University, Faculty of Education

E-Mail：k-mita@setagaya-u.ac.jp

【構成】

・部位構成は，章，節とします。必要に応じて，章の上位に部，節の下位に項の設定も可とします（ただし「部」はかなり大きな論文に使うことが普通です）。部にはローマ数字+ 空白，章にはアラビア数字+ ピリオド，節には( )で囲んだアラビア数字+空白，項には○で囲んだアラビア数字+空白を用います。部および章は，前部ないし前章から１行空白をとり章題のみを１行とし，さらに１行アキを取って内容を書き始めて下さい。節は，前節との間に空白行をとりませんが節題のみに１行を用います。項は，タイトルの後に全角の空白をとり同行から本文を始めてください。

・ノンブル(頁番号)は各頁の下段余白中央に当該論文内での頁番号を明示して下さい。

(2) 文字について

・句点は「。」，読点は「,」をお使い下さい。

・欧文文字およびアラビア数字は半角として下さい（全角文字・和文文字ではありません）。但し１桁数字は全角とし，２桁以上の数字は半角とします(例：「第１号」「23 年間」)。

・括弧，鍵括弧，スラッシュ，ハイフンの類は全角としてください。

・投稿原稿では文字サイズは問いませんが，本文文字は印刷仕上がりにおいては 9/92 ポイント（14Q），見出し文字は 12.76 ポイント(18Q)となります。

(3) 図表について

・「図」ないし「表」という表記のみを使い，その他「写真」「作品」「グラフ」などの表記は，特別な事情がない限りお避け下さい

・図のキャプションは，図の左端に合わせて左詰めし，図の下段に記します。

・表のキャプションは，表の幅において左詰めし，図の上段に記します。

・「図」と「表」のキャプションは，仕上がりにおいては原則として 6.38 ポイント(9Q)となります。

・原則として図表は本文中に割り付け，段組の巾を基準とした統一感のあるレイアウトを心がけるものとします。

・割付については本文内に予めスペースをとり，枠線ないしは図表の縮図を挿入し，図表原稿との対応番号やタイトル等を明記して下さい。

・図表中の文字が仕上がり時点で判読不能にならぬよう，ポイント数や網掛け等に注意して下さい。

(4) 註について

・本文中の註番号は通し番号とし，1) , 2) , 3) のように半角アラビア数字で付し，右肩上ツキとします。査読時の便宜のために，番号を目立つように色でマークして下さい。

・引用文献，参考文献は，まとめて註として下さい。註は本文と同じく２段組ですが，本文より文字サイズを落とし 24 字×53 行の割り付けとします。印刷仕上がりにおいては 7.8 ポイント(11Q)となります。

・註に参照ないし引用として文献を記す場合の表記は以下の通りとして下さい。

論文の場合：著者名「論文名」『雑誌名』巻号等，発行年，参照引用頁.

著書の場合：編著者名『書名』出版社名，発行年，参照引用頁.

直後に重複出現する場合：同，参照引用頁.

間隔をおいて重複出現する場合：著者姓，前掲，参照引用頁.（著者姓，前掲，書名，参照引用頁.）

・欧文論著の場合は上記を原則として，当該言語文化圏の慣例に従ってください。雑誌名，書名はイタリック体を用います。

※パソコン，ワープロ等で上記要領による原稿作成に困難を感じられる方は編集委員会にご相談下さい。

(5) 連番の投稿論文について

・連番の論文（例えば「○○の△△についての研究（Ⅲ)」のようにひとつの論考を数編に分割して投稿する論文）の場合、各論文の冒頭に全体の論考の構成を簡潔に示して下さい。連番の場合、投稿原稿だけでは読者がその価値や評価を定めること難しく、査読も不十分なかたちとなります。最初の第１論文の場合は今後の構想を、第２以降の論文の場合は前論文における成果や経緯を示して下さい。

美術科教育学会金沢大会を終えて

大会実行委員長 鷲山靖(金沢大学)

第 29 回美術科教育学会金沢大会は、大会初日受付開始前の理事会開催中に発生した能登半島地震により、金沢駅に通ずる JR 各線が麻痺するアクシデントがありましたが、会員諸氏、関係諸機関のご支援・協力により無事終了いたしました。地震・交通情報、研究発表者の所在確認をもとに状況を判断し大会開催を決行いたしましたが、会期中には余震があり、参加者の皆様にはご心配をおかけいたしました。

金沢大会は前回京都大会の「学術研究や実践研究の交流という原点に帰り、研究発表重視の運営を心掛け」（学会通信 60 号）ることを継承しましたが、私の企画力不足もあり、研究発表・講演会・懇親会・総会を約一日半の会期にまとめました。そして、研究発表は司会を設けず学生スタッフが進行係を務めました。金沢にお越しいただいた皆様への御礼として、休憩室と発表者控室に湯茶とともに金沢の名菓（きれいに並べすぎてお菓子だと思わなかった方もいらっしゃったようです）とジャスミン鉢植えを用意し、金沢コンベンションビューローと連携し金箔を使用した小さなお土産をアンケート回答者に配布いたしました。

一人でも多くの会員諸氏に研究発表を申し込んでいただくため、申込締切日を 2 月 2 日、口頭発表概要集原稿締切日を 3 月 2 日とし例年より遅く設定いたしました。御陰様で 78 件の研究発表を申込いただき、会期中 221 名に来場いただきました。懇親会へも多数の参加をいただきました。エレベータ停止・一部ドア閉鎖により会場移動が不便になりましたが、本大会が会員諸氏の美術教育研究の広がり・充実に少しでも貢献することができていたなら幸いです。

学術講演は、日本工芸史・日本文化史をご専門とする嶋崎丞氏（石川県立美術館長）より「加賀のものづくり」を演題にご講演いただきました。地震発生二日目のお忙しい中、加賀藩御細工所とその収集品を中心に名工の「ものづくり」の心や意味を多くのスライドにより講話いただきました。

金沢大会開催にあたり学会代表理事の橋本泰幸先生、学会事務局の山木朝彦先生・山田芳明先生には企画・大会広報・学会費納入確認などご支援ご協力をいただきました。また、金沢在住学会員の西澤明先生・有馬佳子先生、金沢大学教育学部美術教室の大村雅章先生・江藤望先生・学生には、勤務先での地震事後処理や親族知人の安否確認など、予期せぬ状況の中、冷静にご判断いただき大会運営にご尽力いただきました。皆様へ厚く御礼申し上げます。

〈金沢大会：研究発表風景〉

〈金沢大会：総会風景〉

〈金沢大会：懇親会風景〉

第30回美術科教育学会群馬大会【予告】

群馬大会実行委員長 新井哲夫(群馬大学)

美術科教育学会第30回大会を群馬大学でお引き受けすることになりました。詳細は検討中ですが、会期、会場等は以下の通りです。

会期については、3月２８日(金)、２９日(度)、３０日（日）の３日間に設定しました。年度末もたいへん押し詰まった時期ですが、地元の公立学校の修了式が３月２６日（水）に予定されているため、地元の先生方の協力の得やすさを考慮し、この時期にしました。この大会が、美術教育学研究の発展・深化に寄与すると共に、美術教育をめぐる環境が厳しさを増し、学校教育における美術教育に元気が失われつつある今日、学校現場の美術教育の活性化に対しても大きな刺激となることを期待し、準備を進めていきたいと考えております。

会場については、荒牧キャンパスの教養教育棟を中心に開・閉会式、総会、研究発表等を行う予定です。

年度の変わり目のお忙しい時期ではありますが、一人でも多くの方々の参加をお願いします。

第３０回美術科教育学会群馬大会の概要

■会期　平成２０年３月２８日（金）～３０日（日）
■会場　群馬大学荒牧キャンパス教養教育棟（JR両毛線「前橋駅」下車．渋川駅行バス３０分）
■日程（予定）

３月２８日（金）午後：受付, 開会式, 研究発表
夕刻：役員会
３月２９日（土）午前：研究発表, 研究部会
午後：研究発表
夕刻：懇親会
３月３０日（日）午前：研究発表会, 学会総会, 閉会式

〈群馬大会：開催予定会場「群馬大学教養教育ＧＡ棟」〉

■大会事務局連絡先
新井哲夫：arai@edu.gunma-u.ac.jp
茂木一司：mogi@edu.gunma-u.ac.jp

東地区会における“thymosとmission”

東地区会担当理事 宮脇理

学会の総集編を年一回の学会大会とすれば、それと表裏の関係にあるのが地区会の研究活動であると考えます。ところで、いかなる運動論にも“thymos と mission”、云うなれば運動の基盤に欠かせない“thymos＝気概”と、組織の継続と隆盛を意図する“mission”、つまり“志向と使命”の両輪があって、初めて組織の永続的運営がなされるものと考えられます。つまり“thymos”だけでは意思表示に傾斜し勝ちであり、“mission”を構築し、運営させるまでには組織運営という、長期経営の論理を必要とするはずです。

教育運動は地味です。一方、ジャーナルを賑わす(FTA)、通商上の障壁を取り除き、自由貿易地域の結成を目的とする、地域経済統合(Free Trade Agreement)のように、目標と結果の因果関係が迅速に想定可能な場合(広義の運動)には、その“thymos と mission”についての世間的関心・反応と合意は得られ易いものですが、眼を(斯界の)教育問題に振り戻した場合、教育の入力と出力の関係は、(FTA)への関心のように即時的判断が出来ないのが普通です。地区会の研究活動は学会大会を応援する底辺運動であり、学会が目指す学的先端を支える苗床造りの一つとして理解して欲しいと思います。

苗床造り(ゼミ)にも相応する地区会の archive は、およそ十五年前の 1992 年 11 月 28 日に公開シンポジウムに端を発しています。タイムスリップして『美術科教育学会二十年史』をご覧ください(美術科教育学会・公開シンポジウム実施の系譜：p101.)。これの企画と実行に移した数年間には、当時の代表理事であった筆者は、花篤副代表と共に通算 20 回の各会場を廻り、多くの理事・会員各位が参画することで、学会の底辺を拡げたものでした。まさに手弁当による積極的参画という趣旨に対し、当時、藤江理事(現・学会代表)がその公開シンポジウムのありようを、いみじくも“出前シンポ”と名づけましたが、この趣意は地区会の現在にまで続いています。

さて、地区会の研究テーマはどのようなものか？「学会通信 No.64」に、近時の概要が（福本前副代表により）要約されています。

〈東地区会の活動より〉

〈東地区会の活動より〉

■2007 年度の“東地区会”企画ライン(速報)

◎第一回/企画/渡辺晃一会員
- 日時：2007 年９月８日
- 場所：会津美里町
- 主題：「地域文化と現代美術」
- 他と共催

◎第二回/企画/仲瀬律久理事
- 日時：2007 年 10 月 13 日(暫定)
- 場所：聖徳大学
- 主題：「対話型ギャラリー・トークの課題と可能性についてのディスカッション」

◎第三回/企画/山木朝彦理事
- 日時：2007 年 11 月、日時未定
- 場所：未定
- 主題：「学校と連携を進める美術館、その成果と展望」

◎第四回/企画/山田一美理事

・日時/2007 年 12 月 1 日

・場所：学芸大学

・主題「ワークショップをめぐるプログラム開発」

■東地区会への参加費は会員、非会員とも無料(資料代￥500 は任意)です。斯界・斯学にご関心の方々をお誘い下さい。詳細・広報は「学会通信」を基本としますが、斯学のジャーナル誌、Blog：(Weblog)などの掲示板にも眼を移して下さい。また、問い合わせなどは直接には上記の企画者、または東地区会担当理事：山田一美、直江俊雄、宮脇まで。(2007.05.25)

本年度 西地区学会 開催地募集

西地区会担当理事 花篤實

本年度(2007 年 4 月～2008 年 3 月)西地区(名古屋以西)での地区学会の開催計画を立てたいと思いますので、本年度中に研究会や発表会を持たれる予定なり、計画を持つところで、美術科教育学会での主催または共催を希望される所がございますれば、6 月中に下記の所にご連絡ください。その地区での既成の研究会で、学会の名義を受け共催の形で開催される形をとられても結構です。地区部会は会員発表の機会を増やす事も目的ですが、地域での交流、PR を図る事も重要な役割です。奮って申し込みをされる事を願っています。学会からは名義貸与と役員の挨拶の他、地区学会の研究紀要(５万円以内)費の補助があります。学会振興のために是非会員皆様のご協力、ご支援を期待してやみません。

■西地区会への参加申し込み場所

花篤實(西地区会担当理事)

〒547-0032 大阪市平野区流町４丁目 10―19

TEL/FAX 06-6709-2475

E-mail／afaug206@oct.zaq.ne.jp

開催予定時期、場所、責任者名、内容(テーマ)を申し出てください。

(新)本部事務局からのお知らせ

美術科教育学会本部事務局

◆会費の振込みのお願い

同封の「払込取扱票」を使って、会費の振込みをお願いします。振込み額については、この通信を送らせていただいた際の封筒表面に貼ってあるラベル上にある数字をご参照ください。

＜ 封筒に貼ってあるラベル（例）＞

〒448-8542
愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１
美術 教子様

8000

この数字と同じ額をお振込みください

（例）8000・16000・24000 など

※ なお、振込み済み等行き違いの節はご容赦ください。

※ 会費振込み額についてのお問い合わせは、本部事務局までお願いします。
bikiga@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

※ 会員種別と年会費は次のとおりです。

正会員	１口	8000 円
賛助会員	１口	20000 円

◆２年間会費未納の方はご注意ください

美術科教育学会の細則の〈第三章－会費及び会員に関する規則〉の第 10 条に「２年間、会費納入義務を履行しないものは退会したものと認める。」との記載がありますのでご注意ください。

◆名簿記載事項に変更があった場合の連絡のお願い

自宅住所や所属先住所など、名簿記載事項の変更があった場合は、できるだけ速やかに本部事務局までお知らせください。

bikiga@m.auecc.aichi-edu.ac.jp